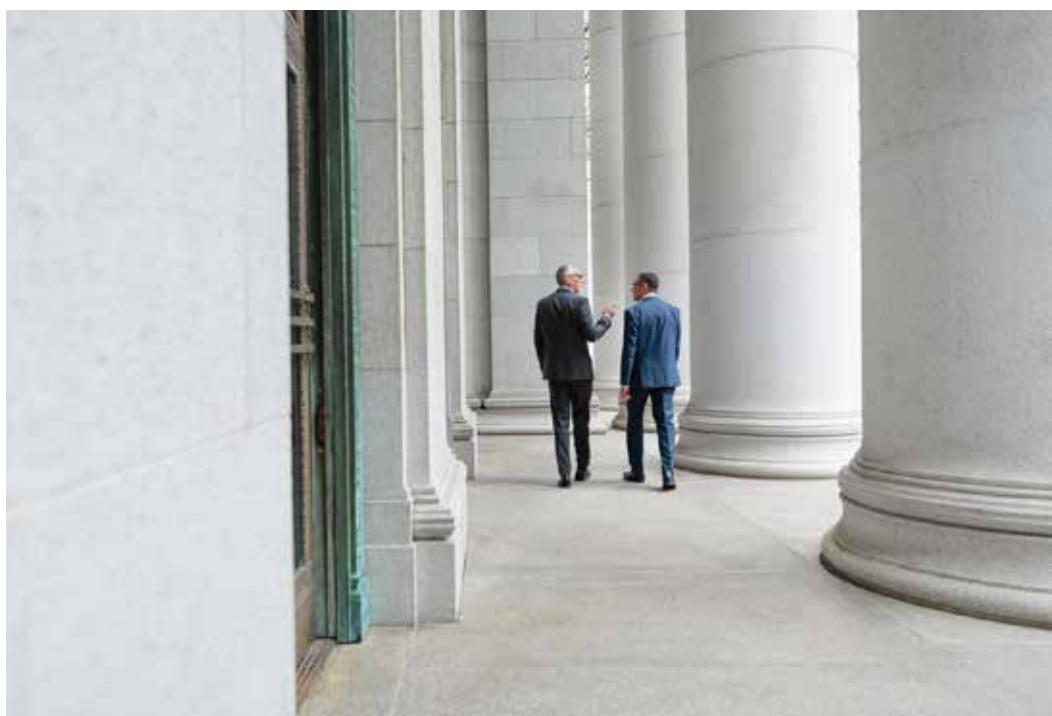




Hewlett Packard
Enterprise

HPE SimpliVityを導入した Kirton McConkieがVDIなどを 迅速かつ確実に最新化

法律事務所が高性能バックエンドにより
リモートアクセス機能と柔軟性を獲得



KIRTON | McCONKIE

「私がIT部門の同僚と会うと、彼らは決まってリモートアクセスについて聞いてきます。そんなときはいつも、『HPE SimpliVityはすばらしい。優れたVDIソリューションであり、しかもまだ本来の機能のほんの一部しか発揮していない』と言っています。」

– Kirton McConkie、ITディレクター、David Clark氏

エンドユーザーが自身の業務に専念できる環境

弁護士や法律事務所のマネージャーに管理上の最も大きな課題は何かと尋ねた場合、時間管理という回答が多いはずです。支払請求可能な時間内で処理を迫られるプレッシャーと、より安価な料金を求めるクライアントの狭間にある法律事務所では、できる限り効率的な時間管理が求められます。

ユタ州最大の法律事務所として、150人を超える弁護士を擁し、知的財産から税務、遺産相続計画といった分野に及び世界中のクライアントに包括的サービスを

提供するKirton McConkieは、時間効率の重要性を認識しています。デスクトップワークフローの最適な合理化に向け、同法律事務所は早くから仮想デスクトップインフラストラクチャ(VDI)を採用していました。その導入から5年後、VDIの基盤テクノロジーが更新時期を迎えましたが、Kirton McConkieのVDIを支えるプラットフォームはV3 Systemsにより構築されたものであり、同社は2014年に事業停止していたため、アップグレードできる可能性は断たれていました。

Kirton McConkieの業務効率化を支えるVDIのメリット

- 常時使用を可能にするオンラインデスクトップにより、場所を選ばない、一貫したユーザーエクスペリエンス
- 重要な法務関連ファイルおよびデータが常にアクセス可能で、かつ安全に保管
- 弁護士は、ITインフラストラクチャツールを懸念せずに、クライアントへの高品質なプロフェッショナルサービス提供に注力

加えて、そのテクノロジーは初期世代のもので、当初の導入時点では初歩的な段階にあった重複排除や圧縮といった機能はレガシー化し、最新機能ではありませんでした。その結果、同法律事務所は仮想マシン（VM）のバックアップをせず、ディザスタリカバリは別のEVaultシステムに置かれることになりました。

そこで、VDIネットワークを最新状態に保つことができ、ディザスタリカバリとバックアップの機能も提供できる、新しいソリューションの導入の検討を始めました。

適切なサーバーで適切なソフトウェアを実行

Kirton McConkieのITディレクターであるDavid Clark氏は、昔からHPEサーバーの支持者であり、彼が推奨するハードウェアで新しいVDIソリューションを展開する方針でした。

こういった背景から、Clark氏は当初あらゆるソフトウェアで利用できるDatriumを検討していました。HPEから購入する前にSimpliVityのデモを見ていたClark氏は、その機能は既に知っていたものの、その時点ではHPE以外のハードウェアにしか対応していないソリューションであったため、導入を躊躇していました。ところが、HPEがSimpliVityを買収するニュースが流れると、契約に踏み切りました。Clark氏は現在、お気に入りのブランドのサーバーで、お気に入りのハイパーコンバージドソリューションを利用しています。

「HPEがSimpliVityを買収し、同社の製品をHPEプラットフォームに移植すると発表があったとき、私の気持ちはすぐ

に決まりました」とClark氏は話します。「私は30年もの間、HPEサーバーのファンでした。その間、何百台というHPEサーバーを使ってきましたが、大きな問題を起こしたことは一度もありませんでした。SimpliVityがHPEプラットフォームに搭載されると聞いて、本当に興奮しました」

ハイパーコンバージェンスがクラウドのようなアジリティとトータルコントロールを提供

Kirton McConkieでは、事業の成長と新しい機能の導入に対応できる柔軟性を備えるため、高いパフォーマンスとアジリティを必要としていました。一方、高いコンプライアンス基準を満たす必要のある法律事務所としては、ネットワークとデータに対する包括的な保護とセキュリティも必要とされます。

HPE SimpliVityであれば、仮想化ワークロード向けインフラストラクチャとデータサービスを1台に組み込んだHPE ProLiant DL380 Gen9サーバーで構成される、事前統合型ハイパーコンバージドビルディングブロックでクラウドのアジリティをそのまま実現するので、これら両方の基準を満たすことが可能です。

Kirton McConkieはHPE SimpliVityによって、新しいVDIのホスティングに必要な容量と柔軟性を手に入れました。また、バックアップ、重複排除、そして圧縮の機能を統合するのに必要となるデータサービスにも、自社ネットワークのセキュリティ下でアクセスすることが可能です。


「現在、HPE SimpliVityには150基のVMがありますが、使用している容量はたったの300 GBです。私には信じられないことです。これは、HPE SimpliVityが高い価値を提供している証です。バックアップとスナップショットを利用しても、稼働率は80:1です。」

- Kirton McConkie、ITディレクター、David Clark氏



80:1

データ利用率

 ツイートする

ハイパーコンバージド ソリューションのスピードの向上は、Kirton McConkieのユーザーに変革をもたらしました。以前、法務スタッフはオフィスでは物理デスクトップで作業をし、自宅でのアクセスには別の仮想デスクトップが必要でした。それがHPE SimpliVityの導入後には、1つの同じデスクトップのみで可能になりました。Clark氏は以下のように話しています。「私が所内の弁護士やスタッフに伝えたいのは、家に帰っても、事務所にいるのとまったく変わらずに仮想デスクトップ環境で作業でき、そのスピードとパフォーマンスも変わらないということです。」

ソリューションの実装も、HPE Pointnextサービスのおかげで簡単な作業になりました。「このサービスによって、我々が移行を開始できる段階まで達したことを確認できました。私の作業は、ただ仮想デスクトップで「migrate(移行)」を選び右クリックして、移行先を入力しただけでした。基本的には、これで完了でした」とClark氏は話します。

スタートは小規模でも、成長に対応できる拡張性を備える

Kirton McConkieでは現在、HPE SimpliVityをVDIのホストとしてしか利用していませんが、Clark氏はこのテクノロジーの高度な機能をさらに有効活用する予定です。

「実は現在、当事務所ではHPE SimpliVity本来の機能の一部しか活かせていません」とClark氏は話します。

「近い将来、さらなる有効活用を考えています。この製品には、私たちがまだ触れてもいない、高価値をもたらす機能がたくさんあります。私の見解では単に時間の問題で、徐々に活用を拡大していきます」

現時点では、Clark氏は、アップグレードされたVDIをスムーズかつ確実に展開すること、そしてその強化された機能を十分に活用することに注力しています。また、断片化されたストレージ領域を利用し、平均稼働率80:1を実現することにより、HPE SimpliVityのVM数を大幅に増やすことに成功しています。将来の計画として、バックアップをメイン オフィスからサテライト オフィスに移すため、HPE SimpliVityの2ノード追加購入を予定しています。

「私がIT部門の同僚と会うと、彼らは決まってリモートアクセスについて聞いてきます。そんなときはいつも、『HPE SimpliVityは素晴らしい。優れたVDIソリューションであり、しかもまだ本来の機能のほんの一部しか発揮していない』と言っています」とClark氏は話します。「所内で稼働させたこの3、4ヶ月の間でHPE SimpliVityがもたらした成果が、本当に素晴らしいテクノロジーであるということを証明しています。」

詳細情報

www.hpe.com/jp/simplivity



KIRTON | M^CCONKIE

目標

老朽化したVDIをアップグレードし、重複排除や圧縮などの最新機能を組み込む

アプローチ

VDIをHPE SimpliVityに移行し、容量と効率の問題を改善するとともに、エンドユーザーに一貫したデスクトップエクスペリエンスを提供

IT面の成果

- HPEサーバーのVDIプラットフォームにアップグレード
- 重複排除と圧縮テクノロジーの統合
- 専門的なスキルを必要とせず、迅速かつ簡単にスタートアップ

ビジネス面の成果

- 障害を最小限に抑えつつ新しいVDIへ移行
- セキュリティとコンプライアンスを確保
- 将来的なモダナイゼーションと成長に向け、アジリティ確保

企業概要

HPEソリューション

- HPE SimpliVity

HPEサービス

- HPE Pointnext

メールニュース配信登録


Hewlett Packard
Enterprise

© Copyright 2018 Hewlett Packard Enterprise Development LP. 本書の内容は、将来予告なく変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise製品およびサービスに限り、それに対する保証は当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対しては責任を負いかねますのでご了承ください。

A00040703JPN、2018年2月